

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 火・1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(水産資源ビジネス) Society and History (Business Behavior of Marine Resource Use)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:山本尚俊 /Eメールアドレス: nao-yama@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 水産学部海洋社会科学研究室(D棟2階) /TEL: 095-819-2814 /オフィスアワー: 月・火 16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: この講義では、食料供給産業である水産業を題材に、資源利用のあり方やその変化を社会・経済活動、国際関係等と絡めて解説する。海、水産資源の利用を巡る国際的な動きやそれに伴う諸問題等について理解を深める。  授業方法: 講義形式。授業はパワーポイントまたはOHPを用いる。  授業到達目標: 食料・水産資源の特性、資源を巡る社会経済活動の変化と現状、それに伴い生じる資源・環境問題等に関して基礎的な知識を得ることで、資源の適切な利用・管理の必要性、我々の社会のあるべき姿について、自身の意見を論理的に述べるができるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)  授業内容(概要) 食料資源と経済活動・消費生活との関わり方を広く理解するため、まず食料・水産資源と食料生産、同資源がもつ特徴について解説した上で、日本漁業の歩みや、水産ビジネスの変質と多様化、資源・環境保護を巡る国際的な動きと我々の消費生活、さらに沿岸漁業・漁村の新たな取組みなど各種トピックを紹介・概説する。それらを通じて、我々の社会・経済活動と資源との共存、持続的かつ合理的な利用のあり方について考える機会としたい。  第1回 授業の概要説明、食料資源と食料生産① 第2回 食料資源と食料生産②、水産資源の特徴 第3回 日本の漁業と水産物需給の概観①(日本漁業の展開経過) 第4回 // ②(水産物需給) 第5回 // ③(変貌する水産ビジネス) 第6回 資源保護と地域社会―捕鯨をめぐる動き― 第7回 環境問題と我々の食―東南アジアのエビ養殖― 第8回 国際的な漁獲規制―マグロ漁業を中心に― 第9回 生産技術の革新―マグロ養殖の光と陰― 第10回 消費国に問われる責任、果たすべき役割 第11回 深刻化する沿岸漁業・漁村の活力低下 第12回 地域資源を活かした新たな取組み―海業― 第13回 資源問題と社会経済活動① 第14回 // ② 第15回 授業の総括(定期試験を含む)			
キーワード	食料生産、水産資源、ビジネス、共生、持続性		
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。参考文献等は必要に応じてその都度紹介する。		
成績評価の方法・基準等	単位取得要件を満たした者に対して、定期試験(70%)、課題レポート(20%)、授業への積極的な参加・貢献度(10%)から成績評価を行う。評価基準は、食料・水産資源やその生産活動の特徴を理解し、かつ資源利用を巡る社会・経済活動の現況やそれに派生する諸問題、国際情勢を踏まえ、資源利用のあり方について基礎的な知見・的確な見解を示せれば合格(60点)とする。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			